

元気ももらった！泉北新歓フェスタ 子どもたちの心に寄り添う学級づくり 心の揺れに寄り添い、子どもとの関係をどうつくるか

4月7日、泉北新歓フェスタを開催しました。毎年恒例のミニレク講座（鶴山台北小、宮下先生）で、からだと心をウォーミングアップ。講演は、元岸和田市立小学校教諭の家串省三郎先生でした。子どもの心は「ちゃんとしたい」「頑張りたい」という願いと、つい楽な方へ流れてしまう気持ちとの間を揺れています。一人ひとりの心の揺れに寄り添いながら、難しい学級を立て直していった家串先生の実践に学びました。

子ども同士の関係を

構築するために



・何を書いてもかまわない
「生活ノート」……字の間
違いや書き方などの修正は
せず、コメントは常に共感
が中心、悩み事には特に力
を入れて返事を書きます。
・一枚文集「なかも」の発
行……子どもたちが「生活
ノート」に書いた文章と、
子どもたちと読みたい詩を
中心に掲載。厳しい指導を
した翌日などは担任の「友
人」（本当は自分）を登場
させ、クラスや担任への客

観的な見方を記載します。

・教師と子どもとの関係づく
り……子どもへの個別的な
接近を丁寧に進め、いつで
も担任に思いを語れるよう
な関係をつくりまします。

・学校行事、班活動、学級
レク……自分たちで役割を
決め、企画します。成功さ
せることで集団としての力
を高めることができます。

・子どもを二つの目でとら
える……「やさしい目」と
「厳しい目」、「共感的な
目」と「評価的な目」。ど
ちらの目を「利き目」にす

「友人・津島成人」の言葉

「……さて、みなさんは予想以
上になんばっているようです
ね。『予想以上とは失礼な』
という声が聞こえてきますが、
ほめていけるのです。でも、家
串君は物足りなさを感じてい
るようです。それは、『私が
言えば、ちゃんと言うことを
聞くが、言われなくても自分
たちでちゃんとする』というこ
ころまではなっていない。』

るのかは、教育を進める上
で重要です。

【参加者の感想】

宮下先生のレクがとても
楽しかったです。家串先生
の実践、お話がとても心に
響きました。特に、一枚文
集「なかも」は読み入りま
した。お家の人や子どもも
こんな文集があるとうれし
いし、心が成長できるなど
思いました。津島成人さん
を登場させて、担任を客観
的にみる文章を私も真似し
たいです。来週からまたが

（新歓フェスタ資料 一枚文
集「なかも」より 一部抜粋）

んばろうという気持ちにな
りました。ありがとうございました。

静かな子どもにも不安や
悩みなどがあることは、常
に頭に入れておこうと思い
ました。また、自分自身を
客観視することは考えてい
なかつたので、気を付けた
と思います。

子どもに寄り添う、共感
する、子どもの立場に立つ
「優しい目」、「共感的な目」
を持つて子どもと関わって
いきたいと思いました。ま



た、おかしいと思える目を
持ち、鵜呑みにしないとい
うのは難しいことでもある
と思いますが、個性を大切
にするという意味でも大事
なことだと思つので、客観
的に物事を見られる目を養
いたいと思いました。

家庭訪問が始まります

「家庭訪問では悪いと
ころは聞き流し、よいと
ころだけメモしましょう。」

新歓フェスタでの、家串
先生の言葉です。家庭訪問
では「お子さんのよいとこ
ろを教えてください」とお
願いし、聞いてきたいろい
ろな「わが子のよい」と話
じまん話を全員分、一枚
文集に掲載して紹介したそ
うです。保護者も、担任も、
読んだ子どもたちも、みん
ながうれしく明るい気持ち
で一年をスタートできそう
な取り組みです。

